

# 北大構内に「新感覚コンビニ」

## 7月開業 フリースペースも



▲セイコーマート北海道大学店の外観（セコマ提供）  
景観と調和する独自のデザインを採用した

中央食堂向かいにコンビニチェーン店「セイコーマート北海道大学店」（セコマ北大店）が設置されること、4月23日、記者会見で発表された。開店は今年7月下旬を予定。本学としては大学病院内を除き初めてのコンビニ設置となる。また、従来のセコマ店舗とは一線を画したデザインやコンセプトを取り入れた「新感覚コンビニ」としての開業も併せて発表された。

同店舗はメインストリート沿い、中央食堂や総合博物館の向かい側に建設される。南北に延びる本学でも人通りの多い一等地だ。

営業時間は年末年始等を除き原則24時間で、深夜も本学で研究などに励む学生・教職員のニーズに応える。取り扱う商品は従来のセコマ店舗と同等数の約3500品目。文具を充実させるなど大学内という立地に即した商品構成にするほか、ホットシェフ（※）も導入を予定する。さらに、セコマ北大店だけの限定商品も計画されている。酒類の販売は現在調整中だ。

建物は2階建てで1階はコンビニ店舗や情報コーナー、2階には広い休憩スペース。



▲自然光が差し込む店内（セコマ提供）

ペース・テラス・キッチンが設けられる。休憩スペース（最大約100席）はテラス（約60席）を含め食事やパーティー、セミナーなど自由に使用が可能。テラスにおいては、ジンパ（ジンギスカンパーティー）も楽しめる。情報コーナーでは、電子ディスプレイを設置し、視覚的に本学の魅力を発信しようと計画。エレベーターや広い化粧室も設け、多様な来店客に配慮する。

同店舗は北海道紋別産のカラマツを使用した木材の一部に、ガラス張りを外周に用い、従来のコンビニ店舗とは一線を画す外観・内観となる。コーポレートカラーのオレンジを抑え、緑豊かな本学の景観と共存可能なデザインを採用。店舗前のベンチとあわせ、店の内外でゆとりのある空間を演出する。

**6月号**  
 <編集・発行>  
 北海道大学新聞 編集部  
 <URL>  
 hokudaishinbun.com  
 (お問い合わせ・情報提供もこちらから)  
 次の発行予定は8月

### CONTENTS

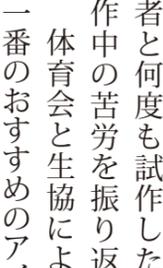
- 北大教授に聞く はしか流行の今後 ……2面
- 新渡戸稲造の植物標本見つかる ……2面
- 教授紹介 河合剛教授【前編】 ……3面
- 北大人に聞く onちゃん（特別学部生） ……3面

## 七大戦グッズ発売へ

### 製作者「大会の輪を広げたい」

第57回全国七大学総合体育大会（七大戦）のグッズが6月中旬より生協購買等で発売される。七大戦は本学を含む旧帝国大学の7大会が毎年行う体育大会。今年には本学が主管する。本学体育会と北大生協が共同でグッズを企画・開発し、7

年に1度の北海道開催を盛り上げる。グッズはTシャツやタオルをはじめとした8アイテム。デザインにはフクロウを模した大会マスコットキャラクター「ええ造」を取り入れる。1000円台で買えるクリアファイルやうち



▲「ええ造」を取り入れたグッズ

わを取り揃えるなど様々な人に手に取ってもらえるよう企画されている。デザインの面では、グッズ製作経験の豊富な生協が体育会をサポート。生協担当者は、「特にノート製作が大変だった。ノートの端まで印刷するのは難しく、印刷業

者とは何度も試作した」と製作中の苦労を振り返る。体育会と生協によると、一番のおすすめのアイテム

既存店舗への影響は 北大生協中央食堂のすぐ向かい側に新店舗が建設される事もあり、一部で懸念の声がかかる。これに対し、生協は「多少影響を受け、営業時間の見直しなどを行うかもしれないが、互

の長所をいかし、大学を協同でより良くしていきたい」と新店舗を歓迎。セコマ側も「幅広い人々へのサービ

生連携協定」を締結した。これからは様々な面で共同での取り組みを実施する。北大の研究や農作物をセコマの商品開発へ活用するほか、学生に商品開発やインターンシップなどの機会を提供する見通しだ。

※ホットシェフはセイコーマート独自の店内調理食品。おにぎりやかつ丼、パンなどを提供する。



▲多数の来場者で賑わう構内

## 第60回 北大祭開催

3日間 9万人が来場

1マとして、ラジオ公開生放送や郷土料理の手作り体験など新たな取り組みも行われた。

来場者数は昨年度より1万人増え約9万人。例年は目立たず、大勢の来場者がキャンパスの非日常を楽しんだ。

**北大祭特別号を発行**  
 本紙は6月末に「北大祭特別号」を発行し、当日の様相を掲載する予定。

# はしかの感染拡大 終息へ向かうか

## ワクチン接種が鍵

今年3月に沖縄県で感染が確認されたから、麻疹(はしか)の感染拡大が騒がれている。国立感染症研究所によると、今年に入ってから5月23日までに162件の感染が報告された。本紙は今回の流行と今後の展開、今我々が注意すべきことについて北海道大学病院感染制御部部長の石黒信久先生に話を聞いた。

### 流行の原因と今後の展開は

今回日本で起こった麻疹の感染拡大は、台湾からの旅行者がウイルスを日本に持ち込んだために発生したとされる。沖縄県から感染が広がり、現在は国内各所で感染が確認されている。国内で感染が広がった原因については石黒先生は、「麻疹にはおおよそ2週間の潜伏期(※2)があり、その間に患者が移動するため、具体的に感染を防ぐのは難しい。行った人が県内で感染し、(症状が出ないうちに)地元へ帰ることでウイルスが全国に広がったと考えられる」と説明する。

### ワクチン接種や早期検診を

今後、万が一に備えてどのような注意を払うべきか。肝心なのはワクチン接種して抗体を獲得することだ。「麻疹は空気感染で伝播するために、マスクにより感染を防ぐのは難しい。2回のワクチン接種を済ませていない人は病院でワクチンを打つことが有効な手段だ」という。また、今回の流行に限らず、麻疹の流行が確認されている地域に行

## 国内はしか報告数 (5月23日現在)

沖縄	88
愛知	25
福岡	17
東京	11
埼玉	6
茨城	3
神奈川	3
大阪	2
山梨	2
千葉	1
静岡	1
岡	1
兵庫	1
山口	1
その他	0

(国立感染症研究所 HP より)

そもそも麻疹とは何か。麻疹とは麻疹ウイルスによる感染症であり、咳や発熱などの風邪に似た症状を示す。しかし、重症化することもある。風邪とは別の疾患と考へたほうが良い。空気感染することが知られており、伝播力が強く広がりやすい。例えば、ある室内に麻疹の患者が居た場合、その部屋中にウイルスが蔓延するほどだという。

日本においては2008年の大規模流行以降大きな流行は見られていない。国の政策でワクチン接種を含めた様々な啓発活動が行われており、2015年にはMHO(世界保健機関)から「排除状態(※1)の認定を受けた」。

石黒先生に尋ねたところ、今回の流行は終息する見込みだという。「ワクチン接種が推進されてきたことにより日本国民のほとんどは麻疹の抗体を持っている。但し、約5%の人は抗体を持っておらず感染・発症する。その場合でも保健所が患者の追跡・囲い込みなどの対策を取ることで流行は終息するだろう」と予測する。

く場合は事前にワクチン接種を済ませることが望ましい。海外旅行などの際には渡航先の情報を十分に確認し、対策を講じることが自分を守ることに繋がる。もし自分や身の周りの人に麻疹の疑いがある場合は、まず病院に行き診察を受けることが推奨される。



▲コプリック斑 (国立感染症研究所 HP より)

先述の通り、麻疹の症状は風邪とよく似ており区別が難しい。麻疹特有の症状として「コプリック斑(※3)があるが素人目には判断がつきにくい。そのため、咳や発熱などの症状がある場合には病院で診察を受けることが大切だ。周囲への拡大を防ぐためにも、早期発見が重要である。」

(※1)国内に由来する麻疹ウイルスが存在せず、36か月以上流行性の麻疹ウイルス感染が阻止されていること。

(※2)感染から症状が表れるまでの期間。

(※3)頬の裏側に発生する小さな白い斑点。麻疹に特有の症状とされる。

## 新渡戸の植物標本発見

### 同窓生・宮部との絆示す



▲新渡戸採集のシダ植物 Campyloneurum 属(ウラボシ科)の標本 【北海道大学総合博物館】

本学総合博物館の植物標本庫から、新渡戸稲造が同窓生の宮部金吾に送ったとされる植物標本3点が発見された。本学にゆかりの深い2人の友情を示す貴重な資料として、4月末から約1か月間、博物館で公開された。今回展示された標本3点は、いずれもカリブ地域の西インド諸島で採集されたもの。1912年12月に新渡戸が西インド諸島に渡航した記録と標本に付されたメモから、採集年月は1912年12月、採集者は新渡戸と推定された。

新渡戸と宮部は、いずれも本学の前身である札幌農学校の2期生。新渡戸は後年国際連盟の事務次官を務めるなど国際的に活躍した。一方、宮部は植物学者として功績を残したほか、札幌市の発展に尽力。今回の発見からは、農学校で出会う卒業後もやり取りを続ける2人の友情の深さがうかがえる。博物館研究員の佐藤広行氏は「新学期にあたり、学生に友情の大切さが伝わるような企画をしたいと考えた」と振り返る。

博物館標本庫内に未整理状態のまま残されている標本は、約30万点。今後の新たな発見を期待したい。

## 北大生協書籍部 売り上げランキング (5月)

※クラーク店と北部店の合計

文庫	書名	著者名	出版社
1	大学4年間で絶対やっておくべきこと	森川友義	KADOKAWA
2	思考の整理学	外山滋比古	筑摩書房
3	論理パラドクス	三浦俊彦	二見書房
3	ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード	小路幸也	集英社
3	数学する身体	森田真生	新潮社

一般書	書名	著者名	出版社
1	北海道の花	梅沢俊	北海道大学出版会
2	ツーリングマップル北海道 2018		昭文社
3	10年後の仕事図鑑	落合陽一	SBクリエイティブ
4	なぜ僕は、4人以上の場になると途端に会話が苦手になるのか	岩本武範	サンマーク出版
5	人口減少社会の未来学	内田樹	文藝春秋

新書	書名	著者名	出版社
1	憲法の良識	長谷部恭男	朝日新聞出版
2	理科系の作文技術	木下是雄	中央公論新社
2	日本統治下の朝鮮	木村光彦	中央公論新社
2	国体論	白井聡	集英社
5	未来の年表 2	河合雅司	講談社



## 季節の一枚

第二農場の前を通りかかろうとした時、思わず足が止まった。凝った技能も何もいらぬ、純粋な美しさがそこにあった。おふたりに幸せの鐘がいつまでも鳴り響きますように。(Photo by 北大写真部・大島颯悟)

# 教授紹介① 工学者としての喜びと教育への熱意を胸に

## 英語学習のスペシャリスト 河合剛教授 (前編)



▲河合剛教授と授業のマスコットキャラクター「白黒パピー」

「何か夢中になれるものを見つけてほしい」。そう語るのは外国語教育センターの河合剛教授だ。新生の英語科目を担当しており、その強烈な個性が多くの学生にとって印象深い。北大教授へのインタビュー連載記事「教授紹介」の第一回目は、そんな教授のバックグラウンド

「何か夢中になれるものを見つけてほしい」。そう語るのは外国語教育センターの河合剛教授だ。新生の英語科目を担当しており、その強烈な個性が多くの学生にとって印象深い。北大教授へのインタビュー連載記事「教授紹介」の第一回目は、そんな教授のバックグラウンド

語の教師になりなさい」と助言された。教師にもなりたかったという河合教授は建築家を断念し、英語と教育の道に進むことを決めた。また教授は科学者にも憧れていた。定量的な手段で真実を追い求めるという科学者の姿勢が性に合っていたという。

つた。「言語学は非常に自然科学的な学問だ。加えて英語や声真似が得意な自分にピッタリだった」という。東京大学で言語学を修め、研究者としての第一歩を踏み出した。

その後の約8年間をそこで過ごすこととなる。SRI在籍中は音声認識システムの開発に携わった。当時は精度が低く、7から12のワードを1分かけて認識し、誤りもあつたという。そのシステムが元となつて作られたソフトウェアがiPhoneなどでお馴染みの「Siri」だ。SRIから独立した元同僚が完成させた。また、日本の企業から音声認識を利用した発音学習システムを作つてほしいと依頼され、それが後の研究テーマとなった。

の学位しか持つておらず、アメリカの会社では高い地位の役職に就くことは出来なかった。それは研究者と学などにも応募していたが、本学の採用担当者に「河合さんをぜひ雇いたい。来るか来ないか今決めてほしい」と決断を迫られ、本学で働くことを決意。そして現在に至る。

の2003年。ITバブルが崩壊した影響で職を失い路頭に迷っていたところだった。同時期には近畿大学などに採用担当者に「河合さんをぜひ雇いたい。来るか来ないか今決めてほしい」と決断を迫られ、本学で働くことを決意。そして現在に至る。

東京大学での4年間を過ごしたのち、修士課程では違う学校に行きたかったという教授は都内の国際基督教大学に進学。そこでは教育法を学んだ。

修士課程を修了したのち、ロータリー財団から奨学金を受けスタンフォード大学に留学した。そこで非常勤の講師にスカウトされ、SRIインターナショナル(以下SRI)に就職。

「責任のある仕事したい」と博士課程へ

SRIで多くの人と出会い、研究活動を続けていた河合教授。だが、当時は修士

今回は河合教授の経歴について紹介した。次回は「Glexa」や白黒パピーの誕生経緯、河合教授の趣味について紹介する。

# インタビュー「北大人に聞く①」

## めざせ全学部制覇

### 学生生活に気合十分 Onちゃん (特別学部2年生)

2017年春、本学にも多くのファンを持つOnちゃん。北大生としての素顔に迫る(協力:HTB北海道テレビ放送/本学産学・地域協働推進機構Onちゃん北大事務局)。

産声を上げた。同局を代表する『水曜どうでしょう』などの番組に出演し全国的に知られる存在となり、マスコットキャラクターとして定着。道内外から幅広い人気を得てきた。

テレビ出演やイベントなど多忙な毎日を送る中、「北海道の応援大使」として活動していくために、もっと北海道のことを知りたい

と本学への入学を志した。2017年4月の入学以来、他の北大生とともに勉強や行事に励む日々を送っている。HTBに帰るときは、法学部で模擬裁判を受けた際、被告人として有罪判決を受けた時は緊張したと振り返る。このほかに、北大祭や新生によるグラスマツチなど数多くのイベントに参加してきたOnちゃん。印象に残った出来事は、「たくさんありすぎて、絞きれないオン！」と刺激的な出会いが尽きない、充実した学生生活を送っている様子をお話した。

数々の出会いに刺激を受けて

Onちゃんは特別学部生として様々な学部で先端的な研究に触れ、学生とともに

人と触れ合いたい

今後の学生生活について「めざせ全学部」と学部

めぐりに意気込む。これからもあらゆる場面で本学の研究や取り組みに触れ、他の学生と交流することを楽しみにしているという。学生・教職員を問わず、もっと積極的に触れ合つてほしいと仲間づくりに余念がない。HTBの柴田千紗子さんも、Onちゃんはデリケートで「放置プレー」や「スルー」が苦手だとした上で、「キャンパスでOnちゃんを見かけたらぜひ声をかけてください」と気遣う。緑豊かで趣深い北大構内は「インスタ映えしまくりだオン！」とご機嫌なOnちゃん。学生生活の様子は、インスタグラム・Onちゃんキャンパスライフで随時発信中だ。

学生へ向けたメッセージとともに。特に女子から「onちゃんせんぱーい」と呼んでもらいたいと、男子らしい一面も見せた (©HTB)



▲学生へ向けたメッセージとともに。特に女子から「onちゃんせんぱーい」と呼んでもらいたいと、男子らしい一面も見せた (©HTB)